

✎ キャリア教育が子どもたちにもたらす成長

キャリア教育は、社会の一員として自分らしく生きる力を育む学びです。日々の授業に加えて探究活動で問題解決力や創造性を養います。職場体験や社会人トークなどでは、教員や親以外の大人と関わる中で責任や努力の重要性を学びます。多様な価値観に触れながら、自らの進路を考え、未来に希望を描く大切な機会となります。

1980 年代



- ・昔のキャリア教育は、就職や進学というゴールに向かわせることが中心だった。
- ・職業や進学先について教えることが主であった。
- ・正解を教えられる学びであった。

現在



- ・変化する社会の中で自ら道を切り拓き、幸せに生きていくための学びが行われている。
- ・職場体験などの実践的な活動を通じて、社会や働く人々と直接関わる体験を重視している。
- ・自分なりの答えを見つける学びである。

✎ 魅力ある学校づくりがめざす安心の教育環境

魅力ある学校づくりとは、すべての子どもたちが楽しく安心して学校生活を送り、「明日も行きたい」と思える学校をつくることです。その中で、自分の良さを実感し、自分が役立っていると思える気持ちが育つことをめざしています。「子どもたちが自治する学級・学校」を柱に、行事や活動を主体的に話し合い実行する中で、責任感や社会性が自然と育まれます。この取り組みは、尊重し支え合える環境を広げ、将来の社会を担う人材育成の土台となります。

1980 年代



- ・教員に言われた通り、正確にできることを重視する価値観であった。
- ・黒板を使い知識を伝える講義型が主流で子どもたちは説明を聞きノートを取る学びが中心だった。

現在



- ・教員は子どもに寄り添い、支える伴走者となる。
- ・子どもたちが自分で考えたことを形にする力を育てる。
- ・教員の一方的な講義だけではなく、友達やクラスメイトなどと話し合いながら課題を解決し、発表する場面が多く取り入れられている。

✎ 教育の中で大切にしたいことは？

摂津市の教育のめざす方向性について、今回は教育長に直接お話を聞きました。

子どもたちが15歳になるまでに、「言語能力」と「好奇心」を伸ばしていきたいですね。言語能力というのは言葉の力です。子どもたちが言葉に触れる機会や言葉で表現する機会を増やし、しっかりと語彙を増やしていかなければなりません。これは授業だけでなく、読書習慣や新聞を読むこと、大人との会話が影響します。SNSやおしゃべりだけでは語彙は増えないんですよ。言葉を大切にし、言葉を増やし、言葉を育てる15年間にしたいです。

✎ 「好奇心」を通じて広がる未来への可能性とは？

「好奇心」というのは、ものごとへの興味・関心を広げるものですし、子どもたちの学ぶ意欲の向上や主体的な行動力にもつながるものです。就学前・小中学校での遊びや学びを通して育みたいですね。その中で、子どもたちが「人」に関心を持ち、「仕事」や「社会」に関心をもつことが重要だと考えています。これはキャリア教育とも言えます。

キャリア教育と魅力ある学校づくり

摂津市では、小中学生が自らの未来を描き、豊かな人生を歩むためのキャリア教育を推進しています。また、地域と連携し、誰もが通いとなる魅力ある学校づくりをめざし、さまざまな取り組みを進めています。この特集では、教育長へのインタビューを交えながら、それぞれの実践例を紹介します。摂津市の教育が拓く新たな未来にぜひご注目ください。 問合せ 学校教育課へ

✎ 子どもの可能性を広げるキャリア教育とは？

キャリア教育は、どんな仕事に就くだけでなく、どう生きていくか、どのように社会と関わっていくかを考える力を育てます。子どもたちが「自分の将来」について考えながら、自分のために、誰かや何かのために、「やりたいこと」や「できること」、そして「やるべきこと」を認識していくことが目標です。人や社会との関わりに対して責任を自覚することで、「子ども」は「大人」になるのではないのでしょうか。

✎ 最後に「言葉」が持つ力について

ブリキのおもちゃ博物館館長として知られる北原照久さんが、雑誌対談の中で、「体は食べたものでつくら



れる。心は聞いた言葉でつくられる。未来は話した言葉でつくられる」とおっしゃっていました。私は、子どもたちに関わる大人の「光る言葉」や「力のある言葉」が子どもたちの心を耕すんだと思っています。そして、子どもたちは獲得してきた言語能力と好奇心を基盤に自らの夢や志を語ることで、しっかりと未来を切り拓いていくのだと思うのです。『立志教育』

摂津市 教育長
若狭 孝太郎(わかさ こうたろう)

✎ 生徒指導の視点を活かした授業づくり ～行事や学校活動の経験を日常の学びへ～

第五中学校では、「子どもが主役」「子どもが自治する学校づくり」を推進しています。学校行事や生徒会活動の企画・運営を子どもたちに任せることで、主体性や協力する力の育成に取り組んできました。昨年度からは、「子どもたちが議題を考え進行する学級会」を導入し、多様な意見や素直なアイデアが出やすい

環境を整えています。この取り組みは、同じ中学校区の鳥飼小学校や鳥飼東小学校と共に「生徒指導の4つの視点」を大切にしながら進めています。今年度はさらに、授業にも「生徒指導の4つの視点」を取り入れ、子どもたちが積極的に学べる環境づくりに力を注いでいます。

4つの視点

1 自己存在感を感じられること

どんな意見も取り上げる
(大切に)

2 共感的な人間関係が育つこと

あたたかな聞き方



△議題は「全員が楽しめる学年レク」

3 自分で決める場を提供すること

自分たちで話し合って決める

4 安全・安心な風土をつくること

多様な考えや意見を尊重する

✎ みんなで学び合う「全校ミーティング」～子ども主体の活動を通して育まれる力～

味生小学校では「子どもが主役の学校づくり」をめざし、児童主体の教育活動に取り組んでいます。1学期には、「全校ミーティングでなかよくなろう」をテーマに、1～6年生の異学年グループで交流を行い、初回は自己紹介やゲームで顔合わせをしました。6年生がリーダーとして進行し、低学年を優しくサポートする姿が多く見られ、思いやりや協力する力が育まれました。今後、児童が話し合いや企画を通して学校生活をよりよくするための全校ミーティングを開催していく予定です。



△全校ミーティングの様子

小学生 Voice

全校ミーティングで、みんなで仲良く助け合えて良かったです。これからも協力して、一人ひとりを大切にする楽しい学校にしたいです。



✎ 子どもたちが輝く未来へ

摂津市では、キャリア教育や魅力ある学校づくりを積極的に推進しています。今回紹介した以外にも、各学校が特色を活かした取り組みを展開しています。

小中学生一人ひとりの個性や興味を尊重し、学びの幅を広げる活動や、将来を見据えた実践的な教育プログラムを実施することで、教育環境の充実を図っています。摂津市の教育を通じて、小中学生が夢や志を持ち、目標に向けて主体的に行動する力を育むとともに、

地域の活性化につながる仕組みが整えられています。今後も教育を軸に地域とともに成長し、次世代を担う小中学生の輝く未来を築いていきます。

各学校の取り組みや市の教育の最新情報を YouTube「摂津市教育委員会チャンネル」で配信中！



✎ 課題と現場から学ぶ働くことの大切さ ～体験を通じた学びと「働く」を考える～

第一中学校では、企業から与えられた課題に挑む探究活動で問題解決力や創造性を養いました。第四中学校では職場体験を通じ、仕事の責任や努力の重要性を実感し、働く人々の工夫や協力から社会の一

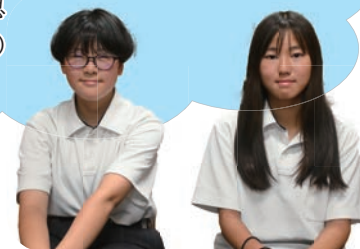
員としての自覚を育みました。これらの経験は、働くことを深く考え、将来への希望を描きながら進むべき道を考える大切な時間となりました。

中学生 Voice



PR 動画制作では不安もありましたが、ワクワクしながら進めました。班をまとめる中でリーダーシップや選択力を学び、この経験を活かして優しい大人になりたいです。(一中)

職場体験で、保育士さんが子どもを思って働く姿が素晴らしいと感じました。接し方や言葉遣いを学び、自分も周りと一緒に働きたいと思いました。(四中)



✎ キャリアパスポートで広がる学びの世界 ～見通しをもって行動し、対話で深める“自分らしさ”～

別府小学校では、キャリアパスポートをうまく活用しながら、キャリア教育を進めています。「キャリアパスポート」は、子どもたちが努力や気づきを記録し、未来の生き方を考えるためのツールです。5年生は学年目標「5(5年)5(GO)1(そして、一つになる、つながる)」を確認し、1学期は「らしさを大切に」を合言葉に自身の目標を具体的に立てました。学校生活では、先生や友達との対話を通じて自己理解を深め、「キャリアパスポート」に努力や気づきを記録します。この取り組みを通じて、自分の可能性に気づき、自信をもって「自分らしい生き方」の一步を踏み出しています。

小学生 Voice

キャリアパスポートを使ったふりかえりで、自分は話す力や集中力が成長したと感じました。これからは、クラスみんなを笑顔にする力をつけたいです。



他国の学びを摂津の教育へ

摂津小学校の片上先生は、JICA 海外協力隊の活動を通じてモロッコの学校で算数指導に携わり、子どもたちの「学びたい」という共通の思いを肌で感じました。この経験をもとに、多様性や地域とのつながりの大切さを摂津市の教育現場に活かし、新たな視点で子どもたちへ学びを届けています。



△数字カードとドリルを使った計算練習の様子

△算数イベントの様子

片上綾子先生 Voice

私は協力隊の活動を通じて、教科書や教材が十分でない環境下でも、子どもたちの「学びたい」という気持ちは国を越えて共通していると実感しました。この経験を活かし、摂津市の子どもたちに「世界のことを身近に感じられる」国際理解・多文化共生教育の取り組みを進めたいと考えています。また、外国につながるある子どもたちも安心して過ごせるように日本語指導加配教員(日本語が母語でない児童生徒の学習や学校生活への適応を支援するため、通常の教員数に加えて特別に配置される教員)と連携していきたいです。そして、摂津市国際交流協会の人々や教職員と協力して多様性の尊重を発信する架け橋になりたいです。

